

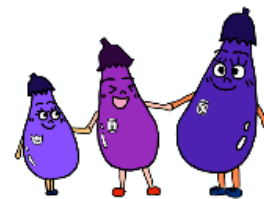
南っ子だより^{4号}

飽田南小学校だより

令和7年6月11日(水)

文責:松永 和宏(校長)

心の絆



6月は熊本市の学校は「心のきずなを深める月間」として取り組みを行います。
そのことを意識して、2日(月)の学校集会では、子どもたちに以下の話をしました。

今月は「心のきずなを深める月間」です。
絆って、どういう意味か知っていますか。
人と人とをつなぐ、結びつけるという意味があります。
だから、結びつける「糸」という字が入っているのです。

今日、私は、とても素晴らしい体験をしました。朝から交通指導で立っていると、2人の男の子が来て、「校長先生、塾のプリントが捨ててありました。」と教えてくれました。「おお、ありがとう。あとで行って拾っておくね。」と答えると、その子は申し訳なさそうに、「僕が拾えばよかったんですけど。」と言ってくれました。「落ちているものだったし、拾おうかどうか悩んだんだよね。教えてくれただけで十分だよ。」と言って送り出しました。

なんて素敵な子どもたちだとさわやかな気持ちで、にこにこしていたのですが、なんとそれからしばらくして、やってきた5年生の女の子が、そのごみを拾って持ってきてくれていたんです。「ありがとう。先生が捨てておくね。」と言って引き受けたのですが、南っ子のすばらしさに、胸がいっぱいになりました。

それともう一つ、2人にあった後、少し気になって通学路を歩いてみました。そこで改めて気づいたことがあります。通学路にごみが落ちていない！なんてすばらしい地域なんだと思いました。住んでいる人が自分の家だけじゃない、地域を大切に思っているからこそです。そんな中で暮らしているからこそ、こどもたちはごみに気づき、拾うことができたのだと思います。

「心の絆」を深めるためには、相手を思いやることです。「自分だけが楽しければいいや」「周りのことは知らん」という自己中心的な人は、結びつきの糸を自分で切ってしまう人です。結局そういう人からは周りの大切な人は離れていってしまいます。逆に今朝の子どもたちのように、周りを見て、何とかしてあげたいという思いを持っている人たちは、周りからも信頼されるのです。

家族を、友達を、仲間を、そして地域を大切に思い、行動できる人を目指してください。
大きな事じゃなくてもいいですよ。言われなくても準備をする、身の回りを整理整頓する、心を込めた「ありがとう」が言える。みんながそれを心掛けるだけで、南小はこれまで以上に素敵な学校になりますよ。

今月だけでなく、年間を通して、お互いの「心の絆」が強くなり、いじめや差別を許さない土壌づくりを行っていきます。

連絡・お願い

- 4月に周知しているとおり、学校の正門前は、保育園の駐停車スペースです。もしやむをえない事情等で車で子どもたちを学校に送られる際は、西門(体育館側)にお回りください。ご理解、ご協力をお願いいたします。
- 田植えの時期となり、用水路の水量が増えてきます。本校区は用水路が多く、柵等無いところも多くあります。本校区は農業が根幹です。用水路は生活の基盤を作るものであり、先人たちの努力の賜物です。通行の際、安全に気を付けるとともに、「なぜ用水路が多いのか。」「時期によって水かさが増えるのはなぜか。」といった問いから、本校区の歴史にも気づき、水路を大切に作る心情が育ってほしいと思います。